

大阪・関西万博における パビリオン建設の状況

令和 5 年 8 月 31 日
内閣官房
経済産業省

1. 会場建設及びパビリオン建設の全体像

（１）基盤インフラ/工事環境： 工事期間中の車両混雑や上下水・電気供給など**施工環境整備が課題。**

（２）主要建築物： 建設事業者は決定。資材価格高騰・人手不足の中、内外装・展示を着実に進める必要。

①迎賓館、催事場等、②民間パビリオン/自治体館、③日本政府館 など

（３）海外パビリオン：

①協会が建設する形式(約100か国)：参加国が内外装・展示を円滑に進めるための支援が必要。

②参加国が建設する形式(約50か国)：**楽観視できない状況。早急に参加国・建設事業者と調整が必要。**

②参加国が建設する形式の建物の検討状況

○パビリオンの建設事業者が決定：10か国程度
※この他、基本構造は協会、内外装等は自国で行う建築方式（所謂タイプX）に関心を持つ国あり。

○依然として、楽観できる状況ではなく、引き続き、参加国と建設事業者の間に立って調整を実施。

- ・参加国と建設事業者の交渉妥結まで伴走
- ・参加国に対する支援策（タイプX）活用の意向確認
- ・パビリオンの施工環境整備の実施



(参考) パビリオンのイメージ

テーマ館や民間パビリオン等：

<テーマ館（福岡館）>



<民間パビリオン（Panasonic）>



タイプA：参加国が建物の建設から展示まで一貫して行うタイプ

<ベルギー館>



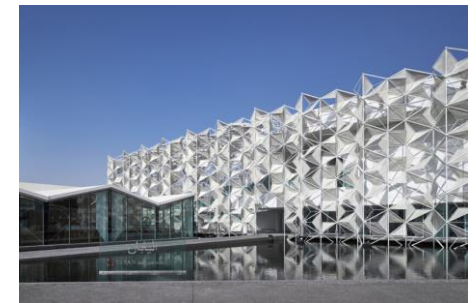
A rendering of the Belgian Pavilion for the 2025 World Expo in Osaka. Credit: Belexpo

<イタリア館>



(参考) 躯体をシンプルにした例：

<ドバイ万博日本館>



タイプX：協会が建設する基本構造に内装や外装等は自国で行う建築方式（タイプAの一類型）

躯体を協会が建設することにより、参加国が外装や内部の展示にリソースを集中して取り組むことができる。躯体をシンプルにして外装に注力する本手法は、過去にもドバイ万博の日本館や愛知万博の米
国館でも使われた方式であり、評価されているパビリオンにも採用。

